

国語科学習指導案（１年２組）

1 単元 根拠を明確にして書こう（教材名「芸術作品の鑑賞文を書く」）

2 単元設定の理由

(1) 教材観

①学習指導要領上の位置付け(身に付けることができるよう指導する事項)

〔知識及び技能〕

(2)ア 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。

〔思考力、判断力、表現力等〕

C(1)エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。

B(1)ウ 根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

②単元の価値

本単元は、「読むこと」において、筆者の考えの進め方に沿って文章の流れを捉えることを通して、読み手を納得させるための文章の展開について考える力を高めていくものである。また、「書くこと」において、芸術作品の鑑賞文を書く活動を通して、読み手を納得させる文章になるように工夫する力を高めていくものである。

それぞれの活動は「三角ロジック」で関連付けられる。三角ロジックは、一般的に根拠と呼ばれるものを「事実」と「理由づけ」に分ける。「理由づけ」とは生活経験から推論することであり、「理由づけ」に注目することで筆者のものの見方・考え方を把握することができる。また、根拠を「事実」と「理由づけ」に区別して文章を作成することで根拠を明確にすることができる。

③単元の系統性

- ・小学校第6学年の「この絵、私はこう見る」では、ルソー作「猿のいる熱帯の森」の鑑賞文を書く活動を通して、意見と根拠を区別して自分の考えが伝わるように工夫する力を身に付けた。
- ・第2学年の「水の山 富士山」では、複数の文章を比較しながら読む活動を通して、文章の構成や論理の展開について考える力を更に高めていく。
- ・第2学年の「四コマ漫画から意見文を書く」では、意見文を書く活動を通して、根拠の適切さを考慮して自分の考えが伝わるように工夫する力を更に高めていく。

(2) 生徒観（男子17名、女子17名 計34名）

- ・定期テストの作文課題において、自分の考えに対する根拠を「事実」と「理由づけ」に分けて記述していた生徒は7名であった。27名は、例えば「仲間が支えてくれた。これからは人のために行動したい」と「理由づけ」が無く、「事実」と「理由づけ」を区別して記述することができていなかった。これは、「理由づけ」が無くても読み手が類推して論理の展開が成り立つことから、日常生活では「事実」と「理由づけ」を区別して表現しようと意識しないことが原因であると考えられる。

(3) 指導観

- ・単元の課題を把握する場面では、芸術に関する漫画における登場人物の発言に対して納得できるかどうか考えさせることで、作品を論じる際の根拠を明確にすることの重要性に気付くことができるようにする。
- ・説明的な文章「花に秘められたふしぎ」の学習で、筆者の考えの進め方を図式化させることで、根拠が「事実」と「理由づけ」に区別できることと、その効果を理解できるようにする。
- ・自分の考えに対する根拠を検討する場面では、生徒の記述から妥当な「事実」と「理由づけ」と、主観的な「事実」と「理由づけ」を紹介することで、検討する観点を理解させるとともに「事実」と「理由づけ」の妥当性についても検討させることで、根拠の明確さについて考えることができるようにする。

3 単元の目標

根拠を「事実」と「理由づけ」に区別することで読み手を納得させるための文章の展開について考え、自分の考えが伝わるように鑑賞文を書くことができる。

4 指導と評価の計画（別紙参照）

5 本時の展開 (7/8)

(1) 目 標

根拠を「事実」と「理由づけ」に区別して構成を見直し、鑑賞文の本論を書くことができる。

(2) 展 開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点及び支援・評価
1 本時の課題をつかむ。 ・今日は、いよいよ鑑賞文を書くのだな。	○前時に作成した生徒の構成メモを紹介しながら、本時の課題を確認させることで、見通しをもって取り組むことができるようにする。
課題：作品の印象を伝えるための根拠は明確だろうか。	
2 鑑賞文の構成を検討する。 ○検討する観点を理解する。 ・根拠は「事実」と「理由づけ」に分けて考えられるのだったな。 ・鑑賞文でも二つの観点から検討できるのだな。 ・「事実」と「理由づけ」が書き入れられていればよいわけではないのだな。 ○グループで根拠を検討する。 (仲間への言葉掛けの例として) ・「事実」はあるけれど「理由づけ」がないから、構成メモに書き加えるとよさそうだよ。 ・「理由づけ」が主観的だから、みんなが分かりやすい「理由づけ」に書き直すとよさそうだよ。 ○検討した観点を共有する。 ・みんな「理由づけ」が書かれていなかったのだな。 ○構成メモを加筆、修正する。 ・「事実」しかなかったから「理由づけ」も書き入れよう。 3 鑑賞文を書く。 ・「理由づけ」も鑑賞文に書き入れることができたぞ。	○「花に秘められたふしぎ」における筆者の文章の展開における工夫を振り返らせるとともに、生徒の構成メモから「理由づけ」の部分をいくつか紹介することで、鑑賞文でも根拠としての「事実」と「理由づけ」の二つが重要であることを理解させる。 ○主観的な「事実」と「理由づけ」も取り上げることで、ただ「事実」と「理由づけ」が書き入れられていればよいのではなく、多数が納得する「事実」や「理由づけ」が重要であることにも気付かせる。 ○三人または四人グループで構成メモを検討させることで、全員の構成メモを検討できるようにするとともに、全員が話し合いで発言しやすいようにする。 ○検討する観点が定まらない生徒に対しては、本論における「事実」と「理由づけ」の有無に着目させることで、検討を促す。 ○「事実」と「理由づけ」の検討が済んだグループに対しては、「事実」と「理由づけ」が読み手を納得させるために適切かどうか検討することを促すことで、主観的な「事実」や「理由づけ」に関しても修正できるようにする。 ○グループで話題になった観点を発表させ全体で共有することで、本時における課題の解決に迫らせる。 ○「どうすれば根拠が明確になるだろうか」と問うことで、解決の方法を共有し、焦点化を図る。 ○鑑賞文を書き始めた生徒に対して、適宜、構成メモに振り返らせることで、「事実」と「理由づけ」が確実に書き入れられるようにする。 【思考・判断・表現】 作品の印象を伝えるための「事実」と「理由づけ」を考えて、本論を書くことができる。(ワークシートへの記述)
4 本時を振り返る。	○本時の振り返らせることで、鑑賞文においても自分の考えとともに「事実」と「理由づけ」が重要であることを再度確認させ、次時の学習の見通しをもたせる。
<振り返り> ・「事実」とともに「理由づけ」を本論に取り入れたことで根拠が明確になった。読み手により納得させる鑑賞文になりそうだよ。	

<「思考力、判断力、表現力等」育成のための具体的な手だて>

読む活動で学んだことを「書くこと」に生かす学習過程の工夫

指導と評価の計画 国語科 1年 単元「根拠を明確にして書こう」(全8時間計画)

目標	根拠を「事実」と「理由づけ」に区別することで読み手を納得させるための文章の展開について考え、自分の考えが伝わるように鑑賞文を書くことができる。				
評価規準	【知識・技能】 意見と根拠の関係について理解している。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の展開について、根拠を明確にして考えている。 「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に明確な根拠を考え、学習の見通しをもって鑑賞文を書こうとしている。				
過程	時間	目標・課題	学習活動	振り返り	評価 (方法・観点)
つかむ	1	◎学習の見通しをもち、根拠を明確にしながら鑑賞文を書くことに感心をもつことができる。 なぜ芸術作品の魅力を伝えることは難しいのだろうか。	○芸術に関する漫画の一節を読み、登場人物の考えに納得できるかどうか考える。 ○グループで感想を共有し、単元の課題を設定する。	☆芸術作品の魅力を伝えることは難しいな。どうすれば作品の魅力がみんなに伝わるのだろう。 ☆これからの学習で学ぶことを生かせば、根拠がはっきりとした魅力の伝わる文章になりそうだな。	【主体的に学習に取り組む態度】 芸術作品の魅力を伝えることの困難さや根拠を明確にすることの重要性について自分の考えを述べることができる。 (ノートへの記述、発言)
		単元の課題：読み手を納得させることができる鑑賞文を書こう。			
追究する	3 <				

	1 (本時)	◎根拠を「事実」と「理由づけ」に区別して構成を見直し、鑑賞文の本論を書くことができる。 作品の印象を伝えるための根拠は明確だろうか。	○構成のメモ書きから主張における「事実」と「理由づけ」を検討する。 ○ワークシートに鑑賞文の本論を書く。	☆「事実」とともに「理由づけ」を本論に取り入れたことで根拠が明確になった。読み手をより納得させる鑑賞文になりそうだぞ。 ☆「事実」も「理由づけ」もみんなが納得してくれたから、根拠が明確なのだな。自分の鑑賞文に自信がもてたぞ。	【思考・判断・表現】 作品の印象を伝えるための「事実」と「理由づけ」を考えて、本論を書くことができる。 (ワークシートへの記述) ★学習用語「事実」「理由づけ」
ま と め る	1	◎単元の学習を今後に生かそうとする意欲を高めることができる。 今回、学んだことや今後に生かせることは何だろうか。	○鑑賞文を読み合い、根拠の明確さについて評価し合う。 ○単元を振り返って、学んだことやわかったことをまとめる。 ○今回学んだことが、どのように生かせるか、意見を共有する。	☆「事実」と「理由づけ」をセットにして書くことで、根拠がはっきりとして、読み手が納得しやすくなることが分かった。 ☆来年の弁論大会では「事実」と「理由づけ」を意識して、主張を考えることができるな。今回の学習を生かして、説得力のある主張をしたいな。	【主体的に学習に取り組む態度】 「事実」と「理由づけ」を区別して文章を作成することのよさや、今後に生かせそうな場面について自分の言葉でまとめることができる。 (ワークシートへの記述、発言) ★学習用語「事実」「理由づけ」